2.　罪の性質を受けた人に対する神の処罰と、罪の性質が人に及ぼす作用

(1) 神の処罰：神からの霊的な分離、すなわち霊的な死

(2) 人に及ぼす作用：悪いことをするのが罪の性質、ではない。良いことでも悪いことでもすることができるが、それらを神から離れてしようとする性質である。

① 神に頼らせない

- ロマ 4：1～2　行いによって認められようとする、自分を誇ろうとする
- ガラ 3：3　肉によって完成されようとする
- ピリ 3：3　肉に頼る

② 霊的に弱くして不法に向かわせる

- ロマ 6：19　*あなたがたの肉の弱さのために・・・・自分の手足を汚れと不法の奴隷として献げて、不法に進む*
- ロマ 8：3　*肉によって弱くなったため、律法にできなくなったこと*

③ 不信者の生き方のベースととなり、死のための実を結ばせる

- ロマ 7：5　*私たちが肉にあったときは、律法によって目覚めた罪の欲情が私たちのからだの中に働いて、死のための実を結びました。*

④ 人を支配し、人の肉体を道具にしようとする

- ロマ 6：12　*からだを罪に支配させる→からだの欲望に従ってしまう*
- ロマ 6：13～14　14 節・*罪が人を支配する*→13 節・人が自分の*手足を不義の道具として罪に献げる*
- ロマ 13：13～14　14 節・*肉に心を用いる*＝罪の性質を刺激することになる必需品や用具などをあらかじめ準備する→*欲望を満たそうとする*→13 節・*遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活*

⑤ 信者を肉的にさせる（情欲や欲望をかきたてる）

- ロマ 7：14　*私は肉的な者であり、売り渡されて罪の下にある者*

この箇所は、信者が聖化を自分の力や行いで達成しようとしたときに起きること。体が自分の内側を罪の性質に引き渡して、信者が罪の性質の奴隷に逆戻りするような状態に陥る。

⑥ 信者が良いことをしたいと願っても、それを実行できなくする

- ロマ 7：18　*私は、自分のうちに、すなわち、自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。私には良いことをしたいという願いがいつもあるのに、実行できないからです。*

信者が良い事をしたいと願うのは、霊的新生のときに、意志も変えられて、神のみこころに従いたいと願うようになったからである。しかし、実行できない。だが、ここから御霊の導きが始まる。詳しくは後で（Ⅲ）。

(3) 信者の希望：罪の性質が無くなるとき

① 私たち信者はこの死ぬべきからだを一日も早く脱ぎ捨てて、栄光のからだをいただきたいと願う。それは、今のからだが年齢とともに朽ちていく体、病気や障害に苦しむ体だからであるが、それ以上に、罪の性質を内に残している体だからである。

② 栄光のからだをいただくことを、「私たちのからだが贖われること」（ロマ 8：23）という。からだの贖いの日を待ち望みつつ、この地上の生活の中で、私たち信者は、自分のからだを「罪の性質」の道具としないように、祈りつつ歩んでいきたい。

ロマ 8：22～24　*私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にしていただくこと、すなわち、私たちのからだが贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。私たちは、この望みとともに救われたのです。目に見える望みは望みではありません。目で見ているものを、だれが望むでしょうか。*

③ 信者の内側から罪の性質がなくなるのは、いつか。教会の信者の場合、次の２種類ある。

- 第一に、教会の携挙の前に死ぬ信者について、である。彼らの内側から罪の性質がなくなるのは、死の時である。信者がキリストにあって肉体の死を迎えると、その霊魂は天のパラダイスに行く。そのとき、信者の霊魂の中には、もはや罪の性質はない。
- 第二に、教会の携挙のとき地上に生き残っていて、死を経ずに栄光のからだに変換される信者について、である。彼らの場合は、変換により栄光のからだを受けるときである。そのとき、信者の霊魂から罪の性質は一瞬にして消去される。

3.　霊的新生と新しい性質

(1) 霊的新生

① 霊的新生の前、人はどういう状態にあるか

- 霊とは・・・人は、物質的部分と非物質的部分の二つから成る。物質的部分は、【からだ】である。非物質的部分は、【霊・魂・心・思考・意志・良心の６つの要素】が互いに重なり合い、一体にして不可分のものである。各要素の働きは互いに重なり合っていて同じように見えることもあるが、特に「霊」は、天、神との関係を担っていて、精神的いのちを持つ要素である。また、「魂」は、地との関係を担っていて、物質的いのちを持つ要素である。
- 霊的な死・・・人が神を信じる前は、「自分の背きと罪の中に死んでいた者」（エペソ 2：1）とあるように、霊的に死んでいる。それは、霊が天や神との関係において遮断状態にあるため、精神的いのちが大きく損なわれているためである。
- 霊はまだ動いている・・ただし、不信者の霊が、消滅しているとか、機能が完全停止しているわけではない。その人の非物質的部分には、霊を含む６つの要素すべてが、機能的には不完全でも、消滅しないで存在している。霊的新生の前では、人の霊は、罪の性質や自我、悪霊、世とは、関係することができる。しかし、神との関係では全く機能しない。

② 霊的新生の時、何が起きるのか

- 霊的新生の時に、事情は一変する。人が神を信じた瞬間に、その人の中に聖霊が、新しい性質【霊】を入れる。この新しい性質を受けると、神との関係が回復して、人の内側の６つの要素のうち、霊が再生する。これを霊的な再生、あるいは新生という。ヨハネ３：６「***御霊によって生まれた者は、霊です。***」　これは、旧約時代の信者にも起きた。
- Ⅰヨハネ３：９「***神から生まれた者は、罪を犯しません***」・・・「***神から生まれた者***」とは、ヨハネ 3：6 の「***御霊によって生まれた者***」と同じ、新しい性質【霊】を指す。
- 新約時代の信者には、さらに２つのことが起きる。一つ目は、**聖霊の内住**・・・聖霊ご自身が、信者の中に入り、信者の中に住んでくださる。信者に神の律法を守る力を与えるためである。聖霊が住む場所は、新しい性質【霊】の中である。

- 新約時代の信者に起きる二つ目のことは、**キリストと一体になること**である・・・これをローマ人への手紙では「キリストにつくバプテスマ」と呼ぶ。福音の 3 要素、すなわち、「キリストは、聖書に書いてあるとおりに、十字架にかかって私たちの罪のために死なれたこと、また墓に葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと」、この 3 つのことを人が信じたその瞬間、その信者は、キリストと一体化されて、キリストとともに死んだという立ち位置に置かれる。これをロマ 6：2 では「罪に対して死んだ」と表現している。

③　なぜ、霊的新生の時に、「罪に対して死んだ」という立ち位置に置かれる必要があるのか。その理由は、二つある。

- 第一に、ロマ 6：7「*死んだ者は、罪から解放されているのです*。」霊的新生の前は、人は「罪の奴隷」（ロマ 6：20）であった。人の内側の 6 つの要素を支配していた主人は、罪の性質であった。主人と奴隷の関係上、奴隷は死ねば、もはや主人の命令を受けることはない。信者は「罪に対して死んだ」ので、罪の性質から解放されたのである。
- 理由の第二を教えるのは、ロマ 6：3～5。キリストの死と一体化することで、キリストのよみがえりとも一体化して、新しいいのち、すなわち、新しい性質に従って歩むため、である。
  - 信じたときに、キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた（6：3）
  - それは、キリストの死にあずかるバプテスマであった（6：3）
  - 信者は、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られた。それは、**新しいいのちに歩むため**である（6：4）
  - 信者がキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになる。ちょうど**キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように**、である（6：4～5）

④　他方、人の内側にあった「罪の性質【肉】」は、霊的新生のときにどうなったのか・・・罪の性質は、**キリストとともに十字架につけられて、無力化した**。ロマ 6：6 は、罪の性質を「古い人」、あるいは「罪のからだ」と表現して、次のように教えている。

- 信者の「古い人」は、キリストとともに十字架につけられた。
- それは、「罪のからだ」が滅ぼされて（＝無力化されて）、信者がもはや罪の奴隷でなくなるためである。「滅ぼされて」と訳されている原語は、

直訳すると、「無力化されて」という意味である。

- 人が信じて霊的新生をしたとき、罪の性質は破壊されたり、消去されたりしたわけではない。依然として信者の内側に存在している。しかし、罪の性質そのものが、キリストとともに十字架につけられて、神によってさばかれており、信者を支配する権威をはく奪された。もはや、罪の性質には、信者を支配する力はない。これが、無力化されたという意味である。

⑤　罪の性質は十字架においてさばかれて、無力化したと④で見たとおりである。また、信者は「罪に対して死んだ」と③で見たとおりである。罪の性質に対する十字架のみわざは、もう一つある。「贖い」である。よって、罪の性質に対する十字架のみわざは、三重の働きである。

- **罪の性質に対して贖いの代価が支払われた**：メシアが、ご自身の血を代価として払って、すべての人を「罪の性質」から買い戻してくださった。したがって信者だけでなく、すべての人は、メシアのものである。
- **信者はキリストの死と一体化されて、罪の性質に対して死んだ**：もはや主人である「罪の性質」との関係は切れ、信者は罪の奴隷ではなくなった。
- **罪の性質は十字架で裁かれた**：罪の性質はもはや、人に対する正当な支配権を持たない。

⑥　霊的新生の後に、何が起きるのか？　まず意志の領域で

- 罪の性質がもはや信者を支配できなくなる、というのは、まず、信者の**意志**の領域において現れる。
- 霊的新生の前には、私たちの意志は完全に罪の性質に支配されていた。
- 霊的新生の直後に、私たちの意志は、罪の性質（「肉」、あるいは「古い人」）による支配から解放された。
- 人が信じて霊的新生をすると、神のことばを聞きたい、神の命令に従いたいと思うようになるのは、意志が罪の性質から解放されたからである。

⑦　霊的新生の後に、信者はどこに進まねばならないか？　思考の一新

- 信者の意志に続いて、信者の思考（マインド）が一新される必要がある。
- 信者になったばかりのときは、まだ、罪の性質に従っていたときの考え方から脱却できないでいる。思考の一新については、後述の「5. 霊は新生し、意志は変わった。信者に必要なのは、思考の一新」にて。

(1) 新しい性質を指す用語３つ：「新しいいのち」・「霊」・「新しい人」

① 「新しいいのち」・・・霊的新生のときに、信者は新しい性質を受けた。これは旧約時代の信者にも起きたことであるが、新約時代の信者は、さらにキリストと一つになり、キリストの復活とも同じようになって、霊的に復活し、力強いスピリチュアル・ライフを歩むことができる。ロマ 6：5 は、新しい性質を「新しいいのち」と表現している。

② 「霊」・・・新しい性質を、新約聖書では「霊」とも呼ぶ（ヨハネ 3：6、ロマ 8：4、10 など）

- これは、人が本来持っている 6 つの要素「霊・魂・心・思考・意志・良心」のうちの「霊」とは別のものである。
- ただし、新しい性質と人の霊とは密接な関係がある。新しい性質を受けて、真っ先に機能を回復するのは、人の霊だからである。人の内側の 6 つの要素のうち、特に神との関係において重要な働きをするのが霊である。その霊が神との関係をもつことができない状態が、霊的な死であった。人は霊的に死んでいた状態から、霊的に生きる者へと霊的復活を与えられた。
- ローマ人への手紙では、新しい性質に従うことを「霊に従う」という。それは、新しい性質そのものに従う意味であるが、信者が自分の内側の要素の中で、新生した自分の「霊」を働かせ、神との関係を第一にしていくことでもある。また、新しい性質の中には、聖霊が住んでおられる。「霊に従う」というとき、それは、新しい性質そのものに従う意味だけでなく、内住の聖霊に従って歩むことにもつながる。

③ 「新しい人」・・・新しい性質を、新約聖書では「新しい人」とも呼ぶ。これは、最初の人アダムを指しつつ罪の性質を「古い人」と表現することに関係する。「新しい人」とは、キリストを指しつつ新しい性質を意味する。

- コロ 3：9～10　***互いに偽りを言ってはいけません。あなたがたは古い人をその行いとともに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。***
- 「古い人を脱ぎ捨てて」とは、信仰によって罪の性質から解放されたこと、そして日々、罪の性質に従うことを選び取らず、罪の行いから離れること、もし罪をおこなったときは罪を言い表す祈りをすることを指す。
- 「新しい人を着た」とは、キリストを信じたときに新しい性質を受けたこと、そして日々、新しい性質に従うことを選び取ろうとすること。

- 信者が受けた新しい性質「新しい人」によって、信者は霊的に復活し、神との関係が回復された。この霊的復活は、信者の思考領域に新たな能力をもたらす。神のことばを読み、神のみこころを理解できるようになる。「新しい人は新しくされ続け、真の知識に至る」とは、そのことである。そのためには、神のことばを自分の思考の中に取り込んでいくのが、最も良い道である。

(2) 新しい性質の特徴・・・義をもって神に仕えることができる

① 罪の性質を、聖書では、「肉」、「古い人」、「罪（単数形）」と呼んでいる。人は生まれたときから遺伝的に親から受け継いで、罪の性質を持っている。**罪の性質【肉】の特徴は、「良いことも悪いこともできるが、いずれにしても、神とは離れたところで**」、である。

② 信者は、神を信じたときに、聖霊によって新しい性質を与えられる。聖書では、この新しい性質を、「霊」、「新しい人」と表現する。新しい性質の特徴は、「義をもって神に仕えることができる」ことである。

③ 「義をもって神に仕える」とは、【神に仕えて、その結果次第で義人になる】、というのではない。初めから、信じたときから、神の前に義人として認められて、義人としての地位をもって、神に仕えるのである。

④ 表現を変えれば、新しい性質とは、自分を頼りとせず、神に拠り頼む性質である。それによって、自分の力ではなく、内住の聖霊の助けと導きによって神のみこころを行おうとする。これは、人の義によってではなく、神の義によって神に仕えるということである。

⑤ とはいえ、罪の性質【肉】、古い人は、まだ信者の中に存在する。信者の内側に罪の性質は残っている。しかし、霊的新生の後は、信者は「選択すること」ができる。

- 「肉に従うか、霊に従うか」、「古い人に従うか、新しい人に従うか」の選択である。
- 霊的新生の前では、人は、罪の性質に支配され、罪の性質に従うほかはなかった。それが、霊的新生の後、信者には、新しい性質が与えられ、二つの性質を持つようになったので、どちらに従うか、選択することができるようになったのである。

⑥ 選択するという機能は、特に、意志の働きである。霊的新生の直後に、罪の性質の支配から、まず信者の意志が解放され、信者の再生した霊と意志とがしっかりと連結させられたのは、このためである。

4.　信者の中での二つの性質の衝突

前の学びでは、信者の内側には、新しい性質と罪の性質という、二つの性質が存在することを見た。この項目では、その二つの性質が信者の内側で衝突することを見る。

(1) スピリチュアル・ライフとの関係

① スピリチュアル・ライフとは（復習）・・・スピリチュアル（霊的）とは、聖霊との関係において成長することである。そして、スピリチュアル・ライフとは、まず「霊的な人」になるための生き方であり、続いて、「霊的な人」としてふさわしい生き方をして、さらに成長し、円熟を目指す生き方である。

② 二つの性質が信者の内側にあるという観点から見ると・・・スピリチュアル・ライフとは、二つの性質の衝突である。スピリチュアル・ライフを通して、信者の中では、二つの性質が、常に、繰り返し、戦い、衝突する。そのことを記す聖書箇所は、ロマ 7：15～25、ガラ 5：16～17　である。

③ 二つの性質が衝突するのは、すべての信者にあてはまることである。そして、霊的な成長のために不可欠のプロセスである。

(2) 新しい人　対　古い人

① 聖書箇所２つ、いずれも「新しい人」と「古い人」との対比にて

- エペ 4：22～24　*その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること、また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。*
- コロ 3：9～10　*互いに偽りを言ってはいけません。あなたがたは古い人をその行いとともに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。*

② 古い人とは、「*最初の人アダム*」を指しつつ、罪の性質を意味する。これに対して、新しい人とは、「*最後のアダム*（第二のアダム）」（Ⅰコリ 15：45）と呼ばれるメシア、イエス・キリストを指しつつ、新しい性質を意味する。コロ 3：10、新しい性質を造ったのは、メシアである。

③ 信者は、古い人、すなわち罪の性質に、もはや従う必要はない。新しい人、すなわち新しい性質に従って歩むことができる。その歩みは、メシアのかたちに似た姿に日々変えられていくという聖化の歩みである。